

# 子宮脱外来を行っています

産婦人科 山道 玄



「子宮脱」という病気をご存知でしょうか？腔から何か固まりが下りてきて触れると、子宮脱になったのではないかと心配される方がいらっしゃいます。腔の奥には子宮があるので、子宮脱だ!と思われる方が多いのだと思います。

でも、実は子宮だけが腔の入口まで下がってくるとは限りません。膀胱や直腸、小腸や尿道といった骨盤の中にある臓器は子宮と同様に、下りてきて腔から出てきてしまうことがあるのです。最近では骨盤のさまざまな臓器が単独あるいは複数同時に腔より脱出してくる病気を「骨盤臓器脱」と呼んでいて、当院では骨盤臓器脱の治療を産婦人科を中心に行なっています。

さて次に、最近の骨盤臓器脱の治療法についてお話していききたいと思います。

最近、骨盤臓器脱の治療は以前よりも選択肢が増え、患者さんに治療法を選択してもらうことができるようになりました。

治療法は大きく分けると手術療法と保存療法があります。まず手術療法からお話します。

最近新聞・雑誌・インターネット等で取り上げられるようになった「メッシュ手術」という方法があります。これは尿失禁・排尿障害がある場合には効果的と言われています。また「腔固定術」といって、腔を本来の位置に戻すために骨盤の骨に固定する方法もあります。程度の著しくひどい方や合併症がある方には、腔を閉鎖し、臓器の脱出を抑える「腔閉鎖術」という方法もあります。

次に、保存療法についてお話します。

「ペッサリーリング」といって、腔内にリング状の装具を挿入し、臓器の脱出を抑える方法があります。また、最近では「フェミクッション」という新しい装具が登場し、ペッサリーリングでは臓器脱出が抑えきれなかった方

でも手術をせずに管理できるケースもでてきました。当院では、いずれの選択肢に対しても、きめ細かなフォローアップを行うよう努力しています。

さまざまな治療法の中で、まず選択されることが多い治療法は、世界的にも普及しているペッサリーリングです。多くの施設では「持続留置法」と呼ばれる、リングを入れっぱなしにする治療法が行なわれています。この方法は簡便ですが、腔壁に持続的な圧迫があるため、腔壁の血流を悪化させ、異物であるリングに細菌が付着し、腔内の炎症を多かれ少なかれ引き起こしてしまいます。腔壁とリングが癒着して出血がつづいたり、おりものが増えて悪臭を起こしたりします。ペッサリーリングが効果的でなくなった場合に腔壁が荒れているため、次の選択肢が限られたものになってしまうこともあります。

そこで当院では、一日一回リングを腔内から取り出して腔壁を休ませ、リングを水で洗って清潔にいただく方法を採用しています（「自己着脱法」といいます）。そうすることによって、腔の炎症を防ぐことができ、癒着も起こらなくなります。もしもペッサリーリングが腔より脱出してきても自分で対処できるため、たとえ海外旅行中でも心配する必要がなくなります。最近では全国でもこの方法を行う施設が増えてきています。

ただ、やったこともないペッサリーリングの出し入れをすることに不安を抱く方がおられると思いますが、当院では、看護師の指導により、すでに70人以上の方が自己着脱法をマスターされています。そして、その多くの方が半年から1年ごとの通院で済むようになってきています。骨盤臓器脱のご心配のある方は、ぜひ産婦人科外来にご相談下さい。



正常



子宮脱



直腸瘤



膀胱瘤

はたらく人が健康である為に①



## 健康診断を一年に1回受けましょう

職場で実施されている健康診断にはいくつかの種類があるのをご存知でしょうか？今回は、労働安全衛生法等の法律で事業者が実施が義務づけられているものについて紹介します。

皆様の中には、前日から食事ができない、採尿する手間、悪い結果が出たらどうしよう…、結果によっては会社を辞めさせられるのではないかと心配になり、なかなか受診したくない…という気持ちになられる方も多いと思います。

では、これは何のために受けるかというところ…

**「労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進すること」**を目的とします。あくまでも労働者に対して、事業主は必要な措置を行い、労働者も協力しなければなりません。また、隠れている病気の発見だけではなく、年齢と共に変わる体の機能を調べ、健康を維持させるという狙いもあります。

### \*「雇入時健康診断」と「定期健康診断」の項目\*

- 既往歴および業務歴の調査
- 自覚症状および他覚症状の有無の調査
- 身長、体重、BMI、腹囲、視力および聴力の検査
- 胸部エックス線検査および喀痰検査
- 血圧の測定、尿検査、心電図検査
- 血液検査  
(貧血検査、肝機能検査、血中脂質検査、血糖検査)

※基本的には医師が認めない限り検査項目の省略はできません。

ぜひ健康診断を受けて下さい。年に一度自らを振り返り、またいたわる機会にもなります。健診結果は保管し、毎年比較してみると、何か新しい発見があるかもしれません。

\*健康診断に関するお問い合わせはこちらまで…

聖隷沼津健康診断センター  
TEL:055-962-9882



(文：健診事務課係長 太田 誠子)

## 市民公開講座開催しました

11月19日(土)、SBSサンフロントビルにて「第6回 聖隷沼津病院 市民公開講座」を開催しました。あいにくの暴風雨にも関わらず、81名と多くの方にご参加いただきました。

今回は「最新のがん治療について」のテーマで、埼玉医科大学 国際医療センター 腫瘍内科 佐々木康綱教授をお招きして、ご講演いただきました。

佐々木教授は、多様ながんに薬物療法で対応する腫瘍内科がご専門で、外来での抗がん剤治療の現状、抗がん剤の副作用、新薬の解説をされました。また、がん患者に対するチーム医療や心のケアの重要性を指摘し、がん治療は「日常生活と治療を並行して続けていくことが大事になる」と言われました。

当院では、今後もこのような公開講座を企画し、地域の皆様へ情報提供ができるように努めて参ります。

(文：事業企画室 課長 笠原 典彦)



佐々木康綱教授

